

2017年2月期  
決算説明会資料



株式会社 日 宣

証券コード：6543

# 目次

---

1

会社概要

2

2017年2月期決算概要

3

2018年2月期業績予想

4

今後の成長戦略

5

株主還元

# 1

## 会社概要

---

# 会社概要

|        |                           |
|--------|---------------------------|
| 社名     | 株式会社 日 宣                  |
| 創業     | 1947年4月                   |
| 代表者    | 代表取締役社長 大津裕司              |
| 資本金    | 32,030万円                  |
| 従業員数   | 120名（平成29年2月末現在）          |
| 事業内容   | 広告プロモーション、コミュニケーションサービス全般 |
| 本社     | 東京都千代田区神田司町2-6-5 日宣神田第2ビル |
| 拠点     | 大阪支社、名古屋支店                |
| グループ会社 | 株式会社 日宣印刷                 |



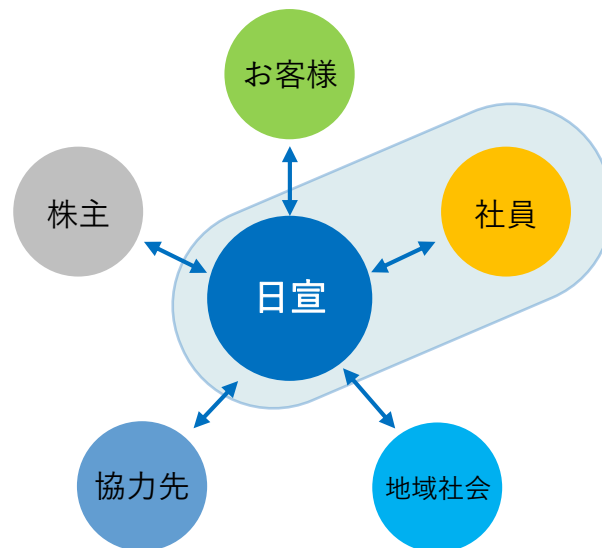
本 社  
(千代田区神田司町)



日宣印刷  
(大阪市城東区)

## 全社員の物心両面の幸福 を追求します。

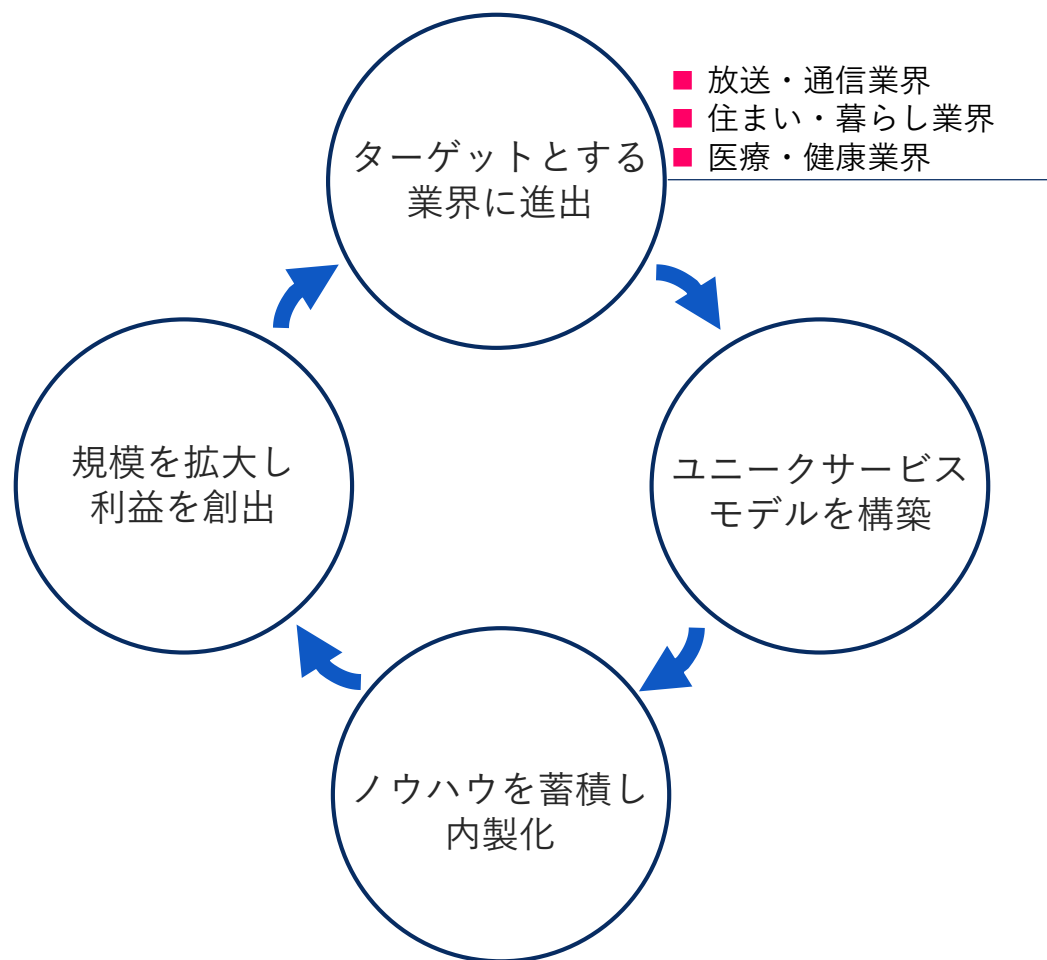
社員が喜んで仕事をする会社であることが、お客様への提供価値を高め、株主をはじめステークホルダーを重視した経営に繋がる。



## ユニークなコミュニケーションサービスの 提供によって、お客様の経営に貢献します。

私たちのゴールはお客様のビジネス課題を解決すること。特化型のマーケティングに基づき、他にはないコミュニケーションの仕組み、メディア、コンテンツ、エクスペリエンスを創造。

# ビジネスモデル



ターゲットとする業界を定め、業界特有のニーズをつかみ、ユニークサービスモデルを構築し、規模を拡大。

# 住まい・暮らし業界（住宅）



40年以上にわたり、大手住宅メーカーに対しセールスプロモーションを提供。

企画、デザイン・コピー、映像・WEB、体験開発など、多数のクリエイティブ人材を抱え内製化。

VRやジェスチャー認識デバイス等のテクノロジーを活用した体験装置を提供。

様々なプロモーションの企画・制作・在庫管理まで、**ワンストップ・フルサービス**を提供。

# 住まい・暮らし業界（ライフスタイル）



無料情報誌「Pacoma」（月刊誌）を企画・発行。広告集稿に加えホームセンター企業に同誌を販売。

Pacoma本誌とWEB、売り場が連動した集客プロモーションを提供。

ホームセンターに販売しているフリーマガジン。Pacoma本誌・WEB・売場が連動した集客プロモーションを提供。

# 医療・健康業界（製薬企業）



製薬企業のセールスプロモーションとして、**疾患予防啓発番組**を提供（**地元医師**が出演）。

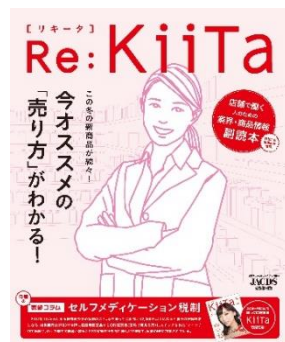
# 医療・健康業界（ドラッグストア）



KiiTa



無料情報誌「KiiTa」（季刊誌）  
を企画・発行。



（手渡し）



Re:KiiTa

新メディアとしてドラッグストアの  
売り場担当者向け無料情報誌  
「Re:KiiTa」を2016年12月に創刊。

ドラッグストア業界向けに自社フリーペーパーを発行。  
両誌は日本チェーンドラッグストア協会の公認情報誌。

# 放送・通信業界



チャンネルガイド



レコメンドサイト

1996年に、CATVの加入者向けテレビ番組情報誌「チャンネルガイド」（月刊誌）を発行開始。参入障壁が高い。  
発行局数は全国約100局。発行部数は150万部/月。

大手通信キャリアが運営する動画配信サービスのレコメンドサイトを運営。

安定した収益基盤。CATV業界において、幅広くセールスプロモーションを提供。大手通信キャリアにデジタルサービスも提供。

## 2

## 2017年2月期決算概要

---

# 2017年2月期連結業績

- 売上高 対前期比+8.1%
- 営業利益 対前期比+9.1% (販管費の増加を吸収し増益)
- 当期純利益 対前期比+29.6% (保険解約の返戻金等により大幅増)

売上高 前期比+8.1%



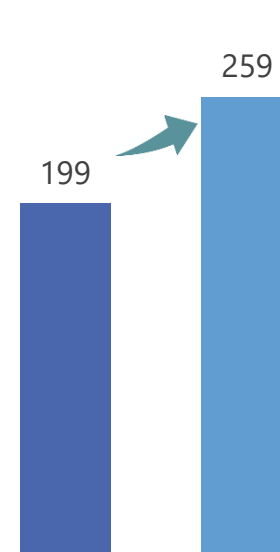
■ 2016/2 ■ 2017/2

営業利益 前期比+9.1%



■ 2016/2 ■ 2017/2

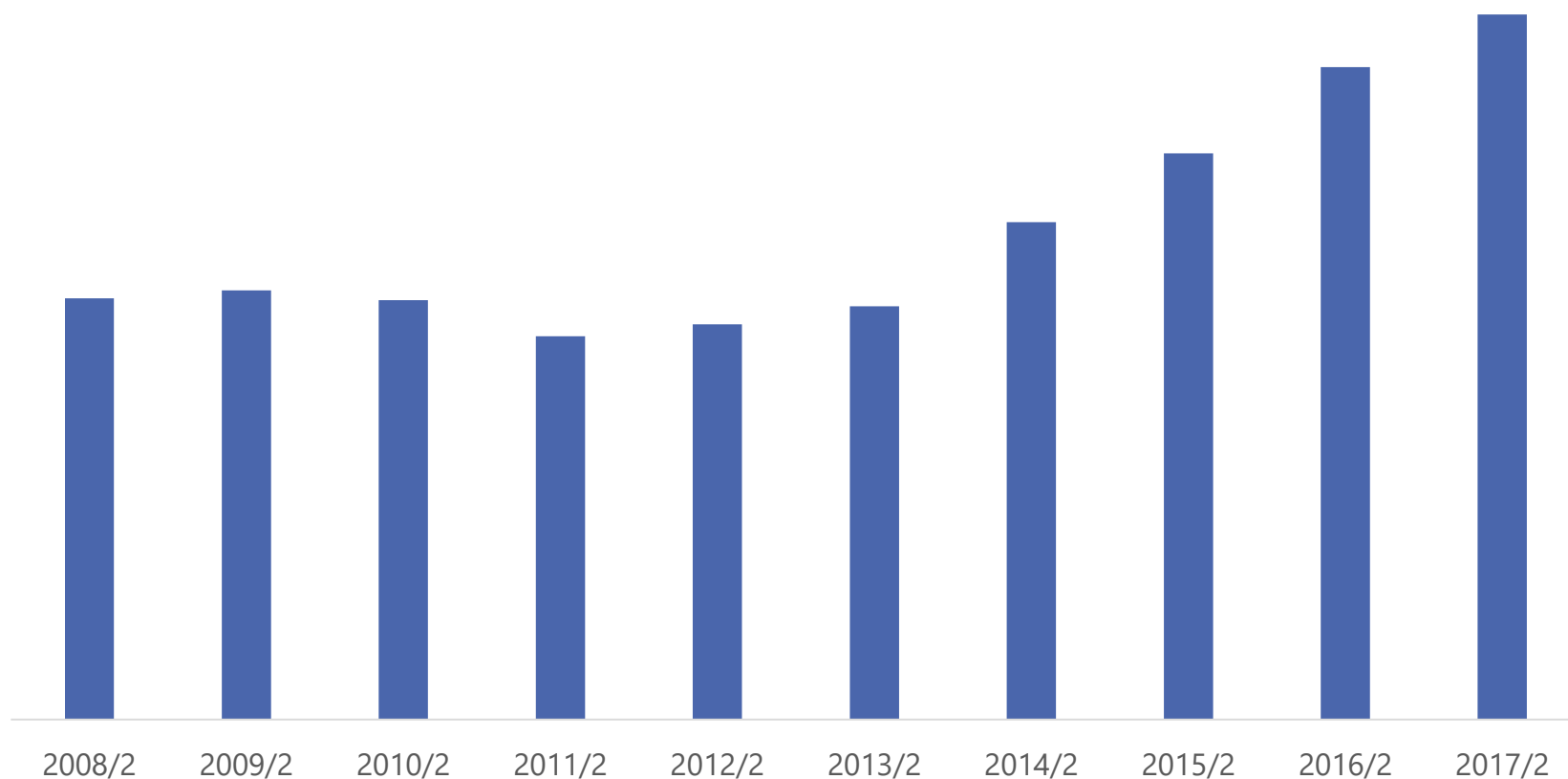
当期純利益 前期比+29.6%



■ 2016/2 ■ 2017/2

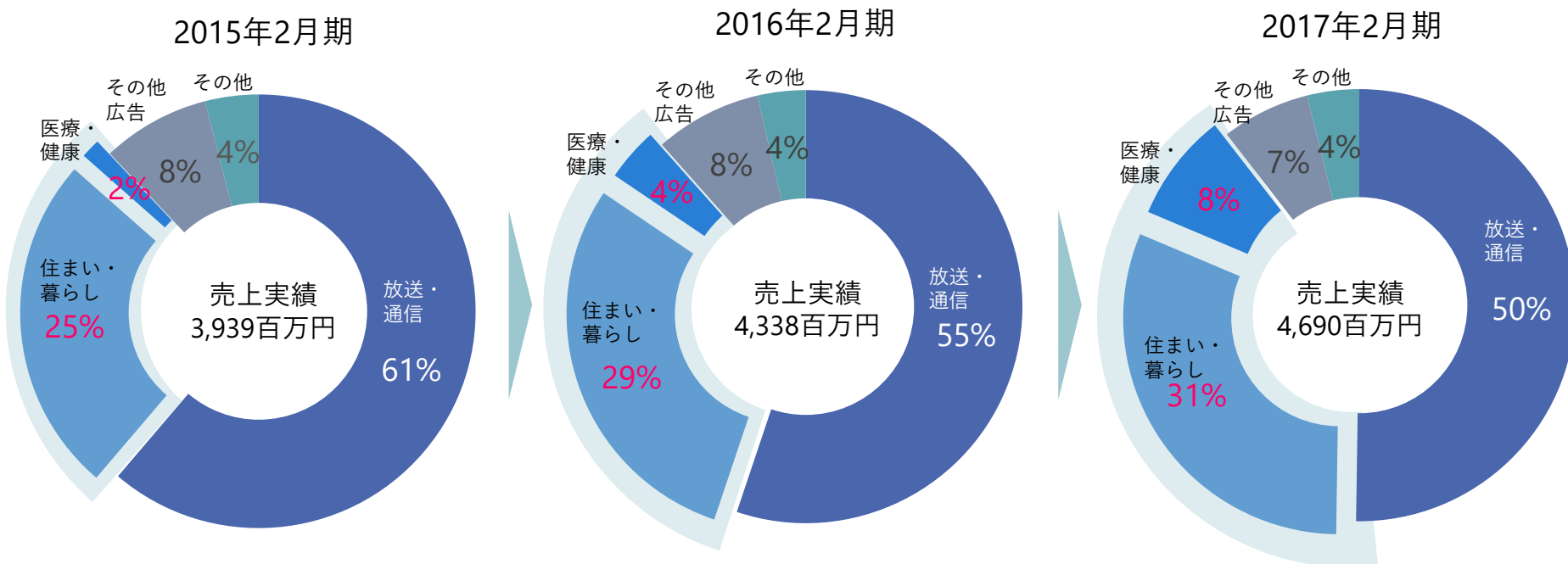
# 売上高の概況1：直近10年の売上高推移

リーマンショック等の影響はあったものの、  
直近10年で売上は堅調に増加。人材採用やM&Aで規模を拡大。



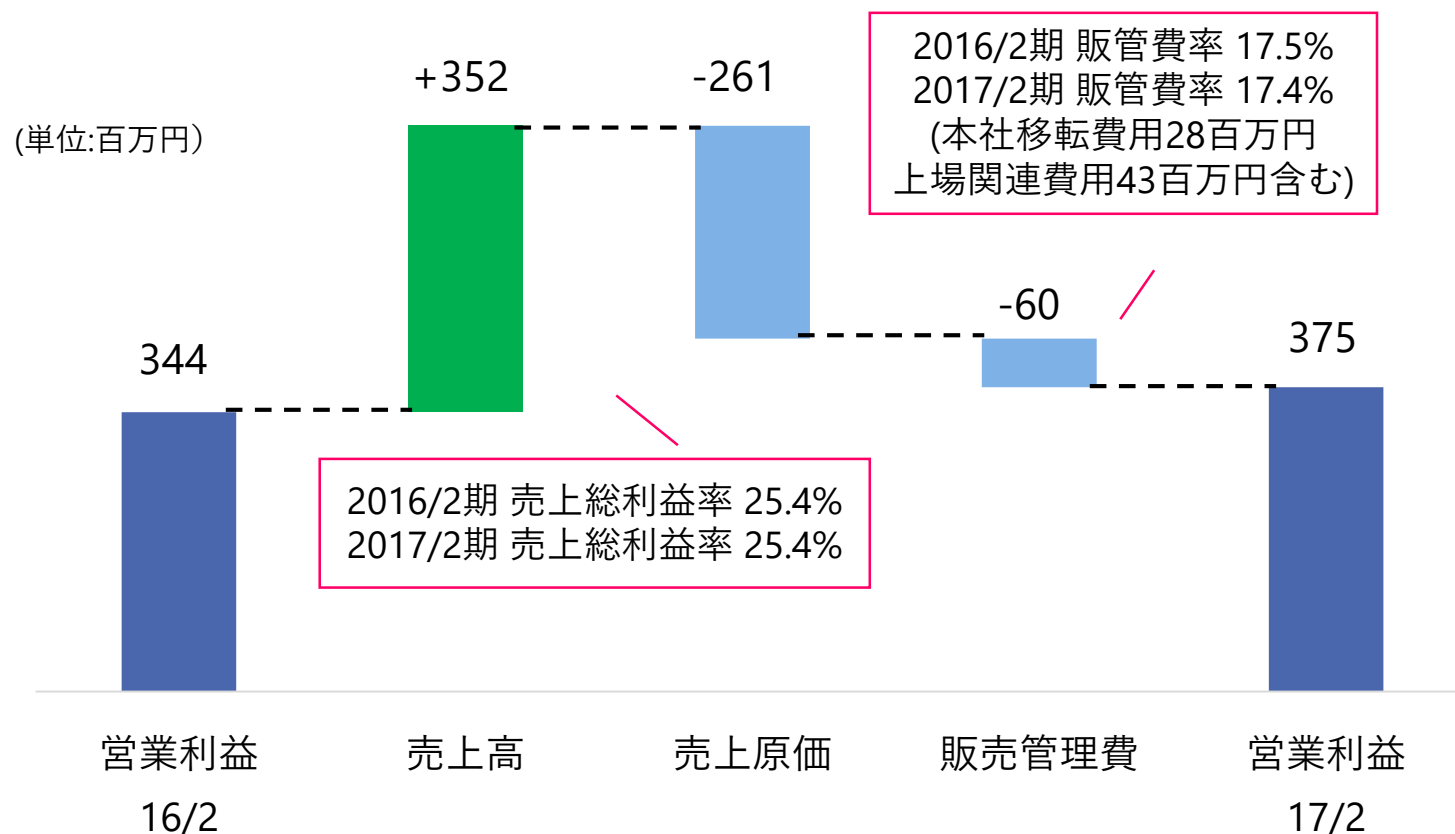
# 売上高の概況2：2017年2月期 業界別の売上構成

内製化やM&Aによりサービスラインナップが増え、  
「住まい・暮らし」「医療・健康」領域が拡大。



# 営業利益の増減

- 売上総利益率・販管費率ともに適切にコントロール
- 売上高の増加に伴い、営業利益は着実に増加



# 損益計算書

| 単位：百万円      | 16/2  | 17/2  | 前期比    |
|-------------|-------|-------|--------|
| 売上高         | 4,338 | 4,690 | 8.1%   |
| 売上総利益       | 1,101 | 1,192 | 8.3%   |
| 販売管理費       | 757   | 817   | 7.9%   |
| 営業利益        | 344   | 375   | 9.1%   |
| 営業利益率       | 7.9%  | 8.0%  | +0.1   |
| 経常利益        | 331   | 418   | 26.0%  |
| 特別利益        | 0     | 0     | -      |
| 特別損失        | 5     | 14    | 170.0% |
| 税金等調整前当期純利益 | 326   | 403   | 23.9%  |
| 当期純利益       | 199   | 259   | 29.6%  |
| 当期純利益率      | 4.6%  | 5.5%  | +0.9   |

# 営業外・特別損益の状況

- 役員保険返戻金で本社移転費用(28百万円)や減損損失(10百万円)を吸収。

| 単位：百万円      | 16/2 | 17/2 | 前期差 | 前期比    |
|-------------|------|------|-----|--------|
| 営業利益        | 344  | 375  | 31  | 9.1%   |
| 営業外収益       | 12   | 74   | 62  | 508.4% |
| 営業外費用       | 24   | 31   | 6   | 26.0%  |
| 経常利益        | 331  | 418  | 86  | 26.2%  |
| 特別利益        | 0    | 0    | -   | -      |
| 特別損失        | 5    | 14   | 9   | 170.0% |
| 税金等調整前当期純利益 | 326  | 403  | 77  | 23.9%  |
| 法人税等        | 141  | 152  | 11  | 8.2%   |
| 法人税等調整額     | △14  | △7   | △7  | △47.4% |
| 当期純利益       | 199  | 259  | 59  | 29.6%  |

役員保険返戻金:  
45百万円

大阪の遊休資産の  
減損損失:10百万円

# 貸借対照表

## ■ 新本社ビル竣工に伴い、固定資産増加

| 単位：百万円  | 16/2  | 17/2  | 前期比   |
|---------|-------|-------|-------|
| 流動資産    | 1,599 | 1,870 | 16.9% |
| 現金及び預金  | 1,070 | 1,284 | 20.0% |
| 固定資産    | 2,375 | 2,586 | 8.9%  |
| 有形固定資産  | 2,133 | 2,339 | 9.7%  |
| 資産合計    | 3,975 | 4,457 | 12.1% |
| 流動負債    | 806   | 813   | 1.0%  |
| 固定負債    | 1,739 | 1,646 | △5.3% |
| 長期借入金   | 1,563 | 1,433 | △8.3% |
| 負債合計    | 2,545 | 2,460 | △3.3% |
| 純資産     | 1,430 | 1,996 | 39.6% |
| 負債純資産合計 | 3,975 | 4,457 | 12.1% |

3

## 2018年2月期業績予想

---

# 当期実績と来期予想

- 来期も既存事業を中心に堅調な成長により増収増益の見込み。
- 旧本社ビルの売却により特別利益が発生し、当期純利益は大幅に増加。

| 単位：百万円 | 17/2  | 18/2(予想) | 前期比    |
|--------|-------|----------|--------|
| 売上高    | 4,690 | 5,025    | 7.1%   |
| 営業利益   | 375   | 427      | 13.8%  |
| 営業利益率  | 8.0%  | 8.5%     | +0.5   |
| 経常利益   | 418   | 428      | 2.6%   |
| 当期純利益  | 259   | 663      | 156.2% |
| 当期純利益率 | 5.5%  | 13.2%    | +7.7   |

# 旧本社ビルの売却

- 2017年3月に旧本社屋を965百万円で譲渡。
- 新本社ビルに伴う借入金を732百万円返済。自己資本比率を改善
- デジタル領域のサービス開発等、今後の成長を進める投資の原資に充当。

| 譲渡資産  |              |
|-------|--------------|
| 資産の内容 | 旧本社屋(土地及び建物) |
| 所在地   | 東京都千代田区      |
| 帳簿価額  | 351百万円       |
| 譲渡価額  | 965百万円       |
| 譲渡益   | 614百万円       |

# 4

## 今後の成長戦略

---

# 成長戦略

既存のターゲット業界の安定的な成長を図るとともに、デジタル・ソリューションの取り組みを強化していきます。

## 現在の主力事業

- ・放送・通信業界  
→大手通信キャリアの開拓に注力
- ・住まい・暮らし業界  
→クリエイティブ・デジタル領域の強化

## 次の大きな柱とする事業

- ・医療・健康業界  
→既存サービスの拡販と新サービスの開発に注力
- ・その他業界  
→インバウンド領域等、新たな業界の開拓

+

## デジタル・ソリューション

- ・当社の長年の強みである「リアルな売りの現場・顧客接点の支援」をさらに進化させるべく、全社をあげたデジタルシフトを推進

# デジタル・ソリューションの取組み強化

- ターゲット業界と親和性の高い「集客支援」と「体験支援」の領域で、デジタル・ソリューションを強化。
- 外部との業務提携等も積極的に行い、スピーディーな市場への投入を目指します。

## 集客支援

×

## 体験支援

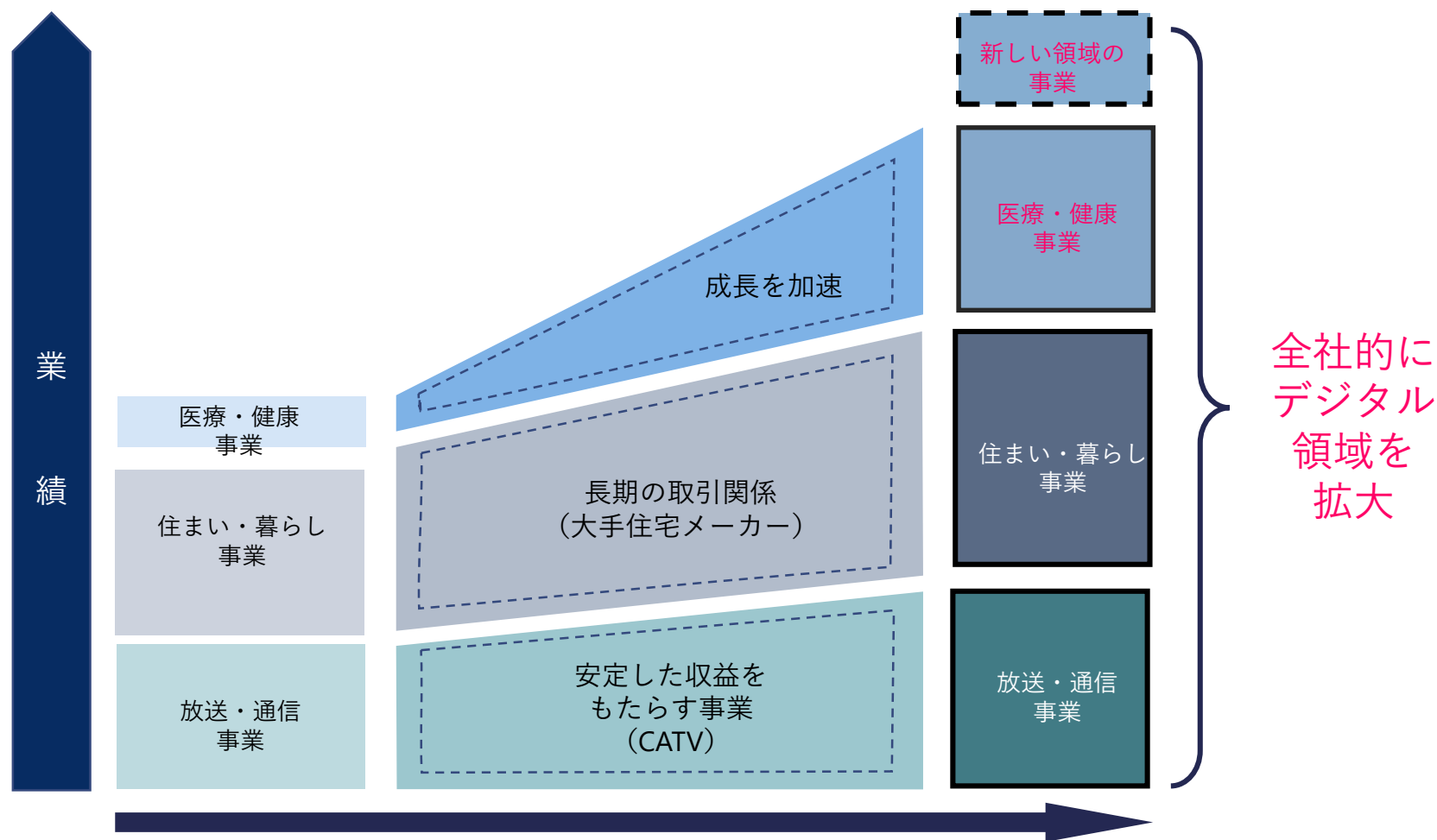


データ等を活用し、狙いたいターゲットにピンポイントに情報を届ける。集める。(IoT等)



最新テクノロジーの活用により、接客プロセスや接客現場における体験価値を向上。(AR・VR等)

# 今後の成長見通し



全社的にデジタル領域を拡大。医療・健康業界を伸ばし、  
将来は新領域での事業を創造。

# 5

## 株主還元

---

# 株主還元

- 配当性向30%を目途に、株主の利益還元を行う方針であり、17/2期は38円とさせていただきます。
- 18/2期は、固定資産譲渡に関するキャッシュは借入金の返済等に充てるため、譲渡益を除いた利益で配当をさせていただきます。

|          | 16/2  | 17/2  | 18/2(予想) |
|----------|-------|-------|----------|
| 1株当たり配当金 | 25円   | 38円   | 42円      |
| 配当総額     | 42百万円 | 73百万円 | 81百万円    |
| 配当性向     | 21.3% | 25.0% | 12.3%    |

# 本資料の取扱いについて

---

本資料には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。

これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本資料の記載と著しく異なる可能性があります。

別段の記載がない限り、本資料に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。

当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。

当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

本資料ならびには、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。